

「福島第一原子力発電所事故に伴う新潟県内の放射線等の監視結果（2012年度版）」への修正等意見の対応状況一覧

(1 / 3)

| 修正等意見 | 修正等理由 | 対応など |
|--|-------------------|---|
| 1 ページ 7 行目目 本県は福島県の隣県にもかかわらず、偏西風と山脈により放射性物質の <u>直接</u> の飛来等が妨げられ、 | 表現の修正（下線部の追加） | 修正します |
| 1 ページ 8 行目目 原発事故による影響はほとんど見られていません。 <u>わずかなものでした。</u> | 表現の修正（下線部に修正） | 修正します |
| 1 ページ 9 行目目 検査でもはほとんど人工放射性物質は検出されていません。 | 表現の修正（下線部に修正） | 修正します |
| 7 ページ下から 8 行目 注釈「※本報告書では、空間線量率を 1 Gy = 1 Sv とし て換算」の位置を変更 | 注釈の位置を分かりやすい場所に変更 | 修正します |
| 7 ページ 11 行目 0.527 μ Sv/h → 0.53 μ Sv/h に変更 | 線量率の有効数字を 2 桁に統一 | 計測値そのままではなく、温度補正後の 推計値（公表値）であることからそのま まとします |
| 7 ページ上から 15 行目 0.495 mSv/年 → 0.49 mSv/年 に変更 | 線量率の有効数字を 2 桁に統一 | 修正します |
| 8 ページ下から 4 行目 荒川、阿賀野川、大河津分水河口域の一部の海底土から 福島原発事故の影響の指標となるセシウム134が <u>を</u> 検出 しました。 | 表現の修正（下線部に修正） | 修正します |

| 修正等意見 | 修正等理由 | 対応など |
|--|--|--|
| 10ページ下から10行目 1,100Bq/kg生 → 1,100Bq/kg乾 に修正 | 乾物の測定であり、単位を修正 | 修正します |
| 10ページ、11ページ 「暫定規制値」、「規格基準」、「暫定許容値」など色々な表現になっているが、食品試料等によって使い分けられた用語かを確認すること | 表現を統一すべきか確認する | 各表現は区別して使用しておりそのままとします。 |
| 11ページ上から4行目 なお、昨年度2011年度、宮城県産の放射性セシウムに汚染された稲わら(暫定許容値300Bq/kg)を給与し・・・ | 時期を明示し、表記を西暦に統一する(下線部に修正) | 修正します |
| 21ページ表注 検出下限が放射性セシウムとヨウ素131と同じであることを確認すること | 検出下限値の確認 | 放射性セシウムの検出下限値であり、その旨が分かるように表記します |
| 23ページ表注 「検出下限値」と「定量下限値」の表記を統一してはどうか | 表現を統一すべきか確認する | 測定機関により表現を使い分けておりそのままとします |
| 24ページ 底質と堆積物の検査において、底質のサンプリングの表層からの深さが不確かではないか確認すること | 場所により、深い層でセシウム134が検出されている。深い層は原発事故前の層と考えられるが、なぜセシウム134が検出されたのか、試料採取時の表層からの深さの計測などに問題が無かったかを確認すべき | 試料は異なる3地点で手掘りで表層からの深さ別に採取し、一番低層のものが事故前のものとは限りません。試料採取にも問題がないため、修正せずそのままとさせていただきます。 |
| 28ページ図中 「下線・・・セシウム134が検出されたもの」を削除する | 図中に下線をひいたものがないため、注釈を削除する | 修正します |

| 修正等意見 | 修正等理由 | 対応など |
|--|----------------------------------|---------------|
| 35ページ上から1行目 平成23・24年2011・2012年度産県内稲わらからは放射性セシウムは検出されず | 表現を西暦に統一する | 修正します |
| 35ページ 時間経過がわかるよう時期を表示する ・図左上の解説に時期を表示 ・図右、左欄の検査実施日に年号を表示 | 経過がわかるように | 修正します |
| 参考資料 「これらの多くの測定値は、フォールアウト起源の放射性核種を検出したものである。」を表示する | 発電所周辺の経年調査結果が示されているので、最初に事実を記載する | P13概要に追加表記します |